

## ヤドランカさんのこと、ご報告

2016年5月3日、ALSで闘病中だったヤドランカさんが亡くなりました。舌を支える筋力の低下からの呼吸困難がきっかけだったのでは、とのことでした。

この突然の訃報に暫くは心も頭も止まってしまいました。そして約ひと月後のツアーがどうなってしまうのかもわからないまま時間が過ぎました。その後「応援コンサート」が「追悼コンサート」と形を変え、予定通りの日程で行われる事が現地の新聞記事で正式にわかったのは、訃報から2週間ほど後のことでした。私たちは心と体がちぐはぐなままリハーサルをし、ツアーに向けての最終準備をし、バタバタと現地へ旅立ちました。一年ほど前から計画を立て、会うことを楽しみにしていた私たちの思いと、日本の皆さんからお預かりした沢山のヤドさんへの思いを、いっただこへ届けて来たらいいのか、気持ちの整理のつかないままの出発でした。



サラエボから5時間程の車移動で、まずはバニャルカにあるお墓に行きました。「<びかむ>から」と「日本の皆さんから」と二つのお花を用意し、皆さんからいただいた応援メッセージの書かれた大きな布や、お手紙、色紙、手作品なども一緒にお供えしてきました。

その後は、すぐに翌日のコンサートのためのテレビ出演やラジオ収録というスケジュールに追われましたが、現地スタッフにお会いしてみて、やっといういろいろなことが見えてきました。ヤドさんが私たちのコンサートをより良い形で実現するために、現地での受け入れやホテルのことなどまで、病床からいろいろとサポートしてくれていたこと、私たちが行くことを本当に楽しみに待っていてくれたこと、最後まで、くれぐれも滞りなくわたしたち<びかむ>を迎えられるように気配りしてほしいと言っていたことなど、いろいろ聞かせてくれました。私達は、何としまちやんとコンサートを成功させなくてはという思いでいっぱいになりました。



コンサートの構成は、ヤドさんが愛してくれた日本の文化を紹介するという意味で古典的な曲を中心にした第1部と、真の意味での文化交流の証となった私たちとヤドさんとの共作曲を聴いていただく第2部。終曲の「火の螢」のあと、満員のお客様総立ちのスタンディングオベーションを受け、思わず泣いてしまいましたが、なんとか無事にコンサートを終えました。終演後にはたくさんの人が楽屋を訪ねてくれましたが、24時間体制で最後までヤドさんに付き添ってくれていた女性が、「ヤドランカさんからあなた達<びかむ>の話をよく聞いてたので、友達に会っ

たような気がする」と言ってくれた言葉は忘れられません。そして、アンケートに書かれてあった「なぜヤドランカがそんなに長く日本に留まっていたのか、コンサートを聴いてよくわかった」という言葉も、悲しみと様々な不安で押しつぶされそうな気持ちでコンサートを終えた私たちを優しく癒してくれました。その後、サラエボでも無事2公演を終え帰国の途に就きました。



ヤドさんは、戦争や病気や沢山の大変な思いを抱えながらも、いつも暖かく柔らかな笑顔で、お茶目なジョークも絶やさない素敵なおアーティストでした。彼女が逝ってしまった悲しみは尽きることはありませんが、ともに音楽できた幸せを忘れずに、一緒に作った曲を大切に、これからもずっと演奏し続けていきたいと思っています。

なお、今回の応援ツアーに向けて、皆様からは大変大きな励ましと暖かいお気持ちを頂戴しました。彼女が関わってくれた〈びかむ〉のファーストアルバムのうちの3曲で作ったCD「火の螢」の売り上げ金と、皆様からの協賛金で、合計40万円程となりました。本当にありがとうございました。その中から、ご葬儀の時のお花代、墓参の時のお花代、楽器運搬のためのレンタカー代、通訳謝礼代として約10万円を使わせていただきました。今回のツアーは、両国間の文化交流事業として、メンバー4人の航空券代を国際交流基金より助成していただきました。



皆様からの協賛金はヤドさんへ届ける日本食や湿布薬などの購入、さらに現金としてもお届けして来る予定でしたが、今回それができなくなってしまいました。そこで現在手元に残っている約30万円の用途ですが、今後ヤドランカメモリアルルームやモニュメントを作るという動きもある様なので、それらの実現の際に、より有意義な形で使わせていただきたいと考えております。この件については現地からの情報を集めているところですので、また具体的になったらご報告申し上げます。

この度は皆様からの暖かいご支援、ご協力、本当にどうもありがとうございました。

坂田美子

with

坂田梁山・稲葉美和・木村たかのぶ（びかむ）